

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成25年12月 第154号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

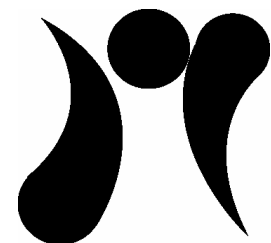
介護は生前供養—そして徘徊

10月26日付毎日新聞朝刊「日々是好日」欄に『介護は生前供養』と載っています。事業家・文筆家の平川克己さん(63)は、父なみ夫さん(享年87)を1年半介護した。『最中に福島原発事故が起きたが、介護生活は淡々と続きました。生きることは大事ではなく些事の積み重ねで、それがちゃんとできることはビジネスや政治と重さとしては同じ。むしろ小さいことの方が大切だと思うようになりました。』

その姿を、友人の内田樹(たつる)さん(63)は「まるで生前供養」と評した。『介護体験をまとめた「俺に似たひと」(医学書院)を出版する頃、幼なじみの内田さんが「平川がやっていたのは生前供養だ」と言いました。供養は、死者が生前してきたことを知り、感謝して遺志を継ぎ、葬ること。それを生きているうちにやっていると。人間の生命は約80年ですが、上の世代から引き継いだバトンを次の世代に渡すと考えると、人間の歴史はずっと続く。自分が走り終えた後も私の思いを背負って走ってくれる人がいると考えると、死がそんなに怖くなくなりました。介護とは、バトンの受け渡しの儀式。私の場合、父の肛門に指を突っ込んで便をかき出す「摘便」がそれだった。老いの強敵は便秘で下剤や浣腸を使ったが出ない。苦しむのでやむにやまれずです。取り繕ってはやれないから全てを吹っ切ると、これまでの恨みつらみがちっぽけに思え、父を許し、私も許された気がしました。親が子の面倒を見るという親子の立場が逆転した瞬間です。そこで確かにバトンを引き継いだという実感が大事です。』

更に「トンカツが食べたいな」の父の言葉について、『相手が元気な時は、話を聞いているようで聞いていない。トンカツを作ってもほとんど食べられないのに「うまいなあ」と言う。なぜかと想像すると、埼玉生れの父が東京に出て初めてのごちそうがトンカツだったと思い当たった。すると忙しい父が一度だけ、小学生の私を駅前のトンカツ屋に連れて行ってくれた意味が分かってくるんです。』そして、骨折で入院した際に子宮頸がんが見つかり、1ヶ月後に83歳で亡くなった母久子さんについて『実は、今もよく思い出すのは父ではなく母のこと。父には「できることはした」という気持ちがありますが、母はバトンの受け渡しをする間もなく逝ってしまいましたからね。』母に対しては介護の時間が少なくて生活歴を想像することが出来ず、その遺志が継げなかった事への深い想いが覗えます。

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

介護を通して生活歴がにじみ出る暮らしに触れ、人と成りを想像して生きざまを理解し、その遺志を継いでバトンの受け渡しを行い、生前供養としての介護が成立するように思います。平川さんにとっては、トンカツを作って父親の生活歴を想像し、摘便を通して生きざまを支え、バトンの引き継ぎを完了したように思います。それを側から観ると、生前供養と映ったのでしょうか。

私達は今、社会を挙げて認知症の人の介護に戸惑っています。特に徘徊は、排泄や食事の介助と違って、多くの地域の人を巻き込みます。徘徊してJRの線路に入り込み電車に轢かれて亡くなった高齢者の事故に対して、家族に多額の賠償を命じる判決が出て、家族や介護現場の困惑が広がっています。『認知症の人は管理すべき存在で、生活の主体者ではないのか?』と。

徘徊する認知症の人は、知性・理性は不全ながらも身体機能は未だ充分に有り、不完全ながらも能力の全てを発揮して生きています。今まで生きて蓄積した経験則を頼りに懸命に自己実現を図り、主役として街を歩く姿は正にチャレンジャーです。介護する家族や介護現場の職員は今『主役としての生きざまを支えるのか? 事故の危険性を避ける為に管理を優先するのか?』大きな岐路に立って迷っています。『介護はバトンを受け渡す儀式・生前供養』と考えると、徘徊する認知症の人を取り巻くご家族と介護職と地域の人々との間に、『共通理解』の為の議論の場が成立するように思います。今はご本人の主体性を尊重する姿勢よりも、居室の施錠やGPSでの居場所確認など安全管理の姿勢が優先しています。しかし例え認知症であろうともリスクに向き合う主役としての主体性を尊重し、生きざまを理解しようとするからこそ、バトンの受け渡しが可能になり、供養の対象になり得るのだと思います。

『パーソン・センタード・ケア』。ご本人を中心に置いて考え、徘徊も主役の生きざまと捉えて、生活のリスクを引受ける本人自身の主体性と責任について『共通理解と協働』の輪を拡げる努力を続ける中で、バトンの受け渡しが可能になる途が開かれるのではないかと考えています。

老いた身体と生命は、次の世代にバトンを渡して社会を引継ぎ、死後には次の世代の肥しとなって永遠の命となる途が開きます。人間以外の生物は、その遺体が他の動物の餌になり、土に還って植物の肥しとなって永遠に生きる命と成りますが、人は『思想と社会性』を次の世代に引継ぐ事で、供養の対象となり、輪廻転生の世界を生きる途が開くのです。思想や社会性など精神的な営みを伝えるには、其れ相当な時間と密度の濃い経験が必要であり、平均7~8年といわれる要介護期間は、精神性を伝える重要な時間です。人生を締め括る主役の生きざまを支える『密度の濃い介護』こそが、思想を伝え、縁をつなぎます。本人を中心に考える介護が生前供養になり、輪廻転生の世界に通じる途である事を心に留め、老いと死と介護について、そして『徘徊』について、今一度根底から考え直してみたいと思った次第です。

自分が歩いてきた歴史を伝える為に人は歩き続けるのかも知れず、バトン受渡しの助走として『徘徊を許容する街』が、ずっと歴史が続く社会を創り、先天的に傷害をもつ子供の誕生を歓迎するコミュニティにもつながっているように思います。

せいりょう園 渋谷 哲



「ドイツ REHACARE 2013」福祉機器展と 福祉用具を廻る地域リハケア視察

従来型特養介護士 衣笠 将弘

日程：平成25年9月26日～10月3日

行程：9/27（金）～28（土）REHACARE 展示会（デュッセルドルフ）

9/29（日）ロンドン市内見学

9/30（月）英国の医療・介護制度と福祉用具及び高齢者の長期ケア

認知症への福祉用具・情報通信技術の利用（在宅ケア・モニタリング機器）

10/1（火）East London NHS Foundation Trust, ニューハム区の地域医療・ケア

プライマリーケア 亜急性期リハ・高齢者住宅とテレケアの実例

ドイツでは福祉用具、障害者に対応し支援を行える機器を展示販売している REHACARE 展の視察にいかせていただきました。その現地には電車で向かったのですが、車椅子に乗られた障害者の方が数多くおられました。その方々は誰の手も借りることなく乗り降りをし、段差でのりこえられない時は周りの方がすぐ気づき、そっと車椅子を押す場面などがありました。

現地に着くと多くの方が視察、見学に来られていました。入口には無料の電動カートがあり誰でも使えるようになっていました。もちろん健常者の方も使えるのですが、使用している方はいませんでした。

中は1～7番までのブースがあり数多くの出展、来場者で溢れかえっていました。もちろん障害者の方も数多くおられました。日本では人権がどことなくないがしろにされている事や、一般の方の好奇の目などあり、障害を持つ本人がまるで自分自身が場違いのような錯覚に陥る現状がありますが、ドイツではそのようなことが一切なく健常な方と同じ扱い、また手が足りないと思える援助が必要な場面はこちらが察して手を差し伸べるという、わかっているても出来ないような所がドイツでは当たり前になっており、自分自身少し恥ずかしくなりました。この REHACARE 展では福祉用具、支援機器の展示というよりは障害者の方が自身の目で確かめ、自分に足りないところを補う機器を買いにきているという感じがしました。

地域リハケアではイギリスに視察にいきました。まず英国の福祉と医療等さまざまな講義を受けました。中にはロボテクス技術の講義などありました。ロボテクスは自分は専門外でありあまりわかりませんでした。最新技術で義手が作られているというところは理解できました。

今回で一番の興味深かったところは高齢者住宅の視察でした。ここではもともと高層マンションだった所を改築しヘルパーつき高齢者住宅にしたそうです。こちらではコールセンターがあり、ニューハム区の高齢者7500人以上が利用されています。もちろん電話でするので他の地区、自治体からの要請にも対応できますが、その際は有料だそうです。

コールセンターは電話でももちろん掛けられますが、ペンダント型などあり、緊急時はそちらを押していただき対応するそうです。認知症がある方でコールを押してしまう方にはセンサー類で対応するそうです。

今回の研修では海外の取り組み、介護に対する姿勢を見させていただき勉強になりました。今後のケアに活かしていきたいと思えます。



テーマ「認知症の方との接し方について」

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

認知症の症状がある方は年々増加し、85歳以上では4人に1人は認知症の症状があるといわれています。以前に比べると、認知症という病気もテレビなどのメディアで耳にするようになり、身近に感じることもあるのではないのでしょうか。また、ご家族やご近所の方が認知症を患い、実際に介護している方も少なくないと思います。

自分や家族が認知症になっても、住みなれた地域で、自分らしく暮らすことができるように認知症を正しく理解しようとする取り組みが様々な場所で行われていますが、認知症の方を何も分からなくなってしまう方、という誤った認識をしている方も多いようです。

認知症の方との接し方を学び、認知症を患っている方が、過ごしやすい地域になるにはどうすれば良いか、皆さんと語りました。

○認知症を知ろう

まずは、認知症という病気を正しく理解する必要があると思います。脳は、私たちのあらゆる活動をコントロールしている司令塔です。それがうまく働かなければ、精神活動も身体活動もスムーズに運ばなくなります。認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態を指します。

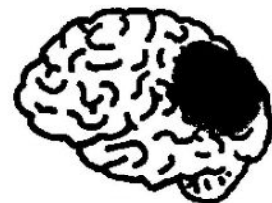
認知症を引き起こす病気のうち、もっとも多いのは、脳の神経細胞がゆっくりと死んでいき脳自体が萎縮して起こるアルツハイマー病が全体の50パーセントになります。続いて多いのが、脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などのために、神経の細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、その結果その部分の神経細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れてしまう脳血管性認知症が全体の30パーセントになります。その他にも脳の神経細胞の中に、ある種のたんぱく質が現れることによって起こり、主に幻覚などの症状が強いレビー小体型認知症や水頭症などの脳の疾患により起こる認知症もあります。



健康な脳



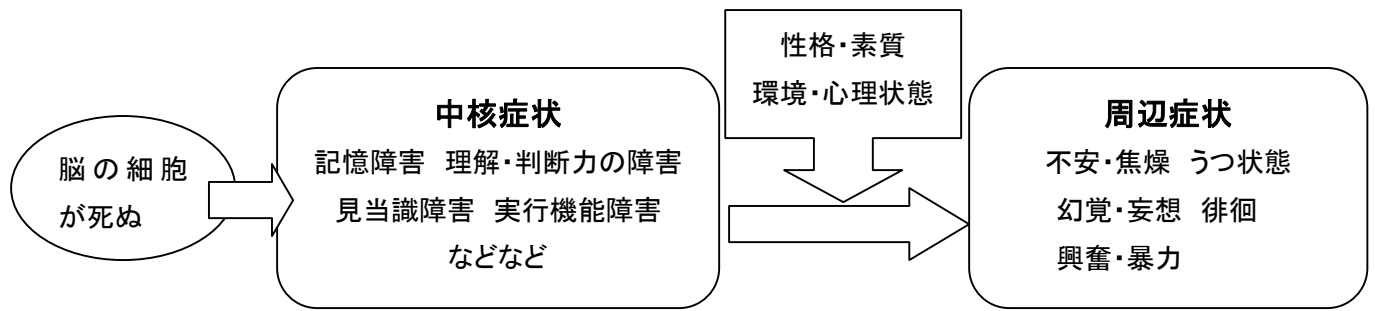
脳の細胞がびまん性に死んで脳が萎縮する
(アルツハイマー病などの変性疾患)



血管が詰まって一部の細胞が死ぬ
(脳血管性認知症)

○認知症の主な症状

認知症の症状には脳の細胞が死んでしまうことによって直接起こる「中核症状」と、その中核症状に対して本人の性格や生活環境、心の状態が関係することで起こる「周辺症状」があります。



この内、周辺症状については、まわりの方の接し方や環境によって症状に変化があることがあります。また、まわりの受け止め方次第で症状を「問題行動」として捉えてしまう場合もあります。私たちもそうですが、相手を馬鹿にした口調や尊厳を傷つけるような接し方をすると、興奮されたり症状が強くなってしまふことがあります。声かけひとつで落ち着かれる場合もあります。

○認知症の予防と病気についての考え方

【早期診断、早期治療】

早期診断、早期治療は認知症においても大切なことです。しかし、残念ながら現代の医療では認知症は治ることはありません。この受け入れがたい事実を本人、家族は受け入れる必要があります。その上で、認知症の進行を遅らせたり、周辺症状を抑える治療を行います。大切なことは、早い段階で病気であることを理解し、認知症の正しい情報と接し方を早く知ることです。

【どう接したら良いか】

尊厳を大事にした対応をしましょう。認知症になっても感情やその人らしさは保たれています。その方自身を受け止め、本人の思いや生活に寄り添い、本人にとっての尊厳について考えることが大切です。

感想

せいりょう園では、たくさんの実習生を受け入れています。実習生は、食事介助やトイレ介助などの身体介護はしません。介護の技術は実際に現場で働くことで、毎日の反復によりある程度の水準まで出来るようになります。働き出してもなかなか身につかないのは、観察力です。自分の価値観だけで物事を捉えるのではなく、様々な視点で捉える力を実習中には養います。

実習生には、日々疑問に思うことや気づいたことを毎日聞くようにしています。ある利用者の方が、車椅子を押して欲しいと希望があった際に、職員が「自分でこいでください」と言った場面で、実習生から「押して欲しいと希望があるなら押してあげたらいいんじゃないのか？ここの職員は冷たすぎます。」と投げかけられました。私は、本人が出来ることは、本人にさせていただき、出来ないところだけをお手伝いしている、出来ることを介助してしまうことは、ご本人の力を奪っていることになる、と自立支援が介護の基本であることをお話ししました。視点が違くと、実習生の目から見たせいりょう園の暮らしと私たち専門職が見ているせいりょう園の暮らしはまったく違うものになっているのです。

認知症の方の接し方にも同じことがいえます。認知症という病気を患っていても、ご本人に出来ることはたくさんあります。ご本人を一人の社会人として尊重する、ということはご本人が出来ることはご本人に責任をもってやっていただく、ということだと思います。私たちはそれを、少し離れたところから見守っています。



せいりょう園 月間行事予定



せいりょう園では、毎日様々な催しをしています。
ご家族様も一緒にご参加いただきたいと思いますのでご案内いたします。

- 月曜日** 午前 (第1) 10:30～ 喫茶外出：ユニット型特養
 (第2) 9:00～ 美容師による散髪：従来型特養
 (第4) 9:00～ 理容師による散髪：従来型・ユニット型特養
 午後 (毎週) 13:00～ のびのびルーム (自彊術)
 (毎週) 13:00～ 造形教室：グループホーム
 (第1) 15:00～ 仏教講和 ※一般参加者歓迎
- 火曜日** 午後 (毎週) 13:00～ のびのびルーム (映画会)
 (第1・第3) 13:00～ 書道教室
 (第2) 13:00～ 加古川元気会 ※一般参加者歓迎
 13:15～ 折り紙：テイサービス
 (第2) 14:30～ ビーンズ紙芝居
 (第4) 買物外出：テイサービス
- 水曜日** 午前 (偶数月第2) 9:00～ 美容師による散髪：ユニット型特養
 (第3) 9:00～ 美容師による散髪：ユニット型特養
 午後 (毎週) 13:00～ のびのびルーム (カラオケ)
 (毎週) 14:00～ 音楽療法：特養・テイサービス
 (毎週) 15:00～ 自彊術療法
- 木曜日** 午前 (第2) 10:30～ 買物外出：ユニット型特養
 (偶数月第3) 10:30～ 買物外出：ユニット型特養
 午後 (毎週) 13:00～ のびのびルーム (自彊術)
- 金曜日** 午前 (毎週) 10:00～ ピアノ教室
 (毎週) 10:00～ 喫茶ボランティア：ユニット型特養
 (奇数月第3) 10:30～ 買物外出：従来型特養
 午後 (毎週) 13:00～ カラオケ：特養・テイサービス
 (毎週) 13:00～ 陶芸教室：特養・テイサービス
 (第2・第4) 14:30～ お話ボランティア：テイサービス
 (第4) 14:00～ 介護について語ろう会 ※一般参加者歓迎
- 土曜日** 午前 (第1) 10:00～ 園長との懇談

【年間行事】 1月1日 新年祝賀会

4月 お花見会

6月 木野雅之ヴァイオリンリサイタル

7月末 夏祭り

12月 ロンドンアンサンブルコンサート

12月24日 クリスマス会





天台宗 鶴林寺 宝生院
幹 栄盛 長老

デイサービス 谷澤 高明

いつまで続くのかと思われた猛暑が終わり、短い秋が足早に過ぎ、いきなり真冬を思わせる日の到来である。今朝は外気温が3℃を記録した。本年最後の仏教講話には、天台宗 鶴林寺 宝生院 幹 栄盛師に来て頂いた。当院では今年5月に住職が交代され、15世幹栄盛住職から16世幹敬盛住職へと引き継がれた。ご講話いただく前に、どのように紹介させて頂きましようかと伺ったところ、「『長老』で結構です」とおっしゃって、ホワイトボードにご自身でお名前の後に『長老』とお書きになった。師は先日76歳になられたそうで「後期高齢者の仲間入りですが、同級生の多くは十数年前に定年退職していますが、私は先日まで現役だったので、まだまだ新米です」。それでも同窓生が一人また一人と亡くなっていくのは悲しいことだといわれる。大学の同窓会も当初は5年毎に開催されていたらしいが、現在は毎年各地で開かれているとか。数年前に伊勢の鳥羽での同窓会で海に浮かぶ『浦島太郎の船』なるものを見て、びっくりされたことがあったそうで、そのことから本日は紙芝居を2セット持参された。最初は勿論「浦島太郎」。童話に入る前に、プロローグ。「浦島太郎は海の漁師です。毎日殺生をしています。漁師でなくとも我々はだれも殺生して生きています。口にすることは全て殺生しているのです。人間誰しも悪いこととして生きていますが、時々良い事もします。」ここから紙芝居があって、最後に、「龍宮城で遊びほおけていた浦島太郎、ある時ハッとします。“これでいいのだろうか？”と。彼は『目覚めた』のです。このハッと

することが大事なんです。わずか数十年の命を経てふと気づくと周りの友人や家族がたくさん亡くなっている。あたりの環境もずいぶん変わった。長生きはなんとさびしいことでしょう。これが『玉手箱』なのでしょう。これは子供向けの童話ではありますが私たち大人を目覚めさせてくれる話だと思います。親友が沢山亡くなっている。自分は今日までよく生きてこられたなあ、有難いなあと感じます。

次の紙芝居は「最後の胡弓ひき」。胡弓の引き手『木之助』と鼓の打ち手『松次郎』が二人一組になって正月に各家に門附(カドヅケ)して回る話。技術も未熟で稼ぎも少なかったが、ある味噌屋の主人に親切にしてもらい、お礼もはずんでもらった。それ以来木之助は胡弓の稽古に精を出す。しかし時代と共に門附自体が廃れていき、やる人もいなくなっていった。木之助は一人になっても頑張って続けていたが、親が亡くなったり、自分が病気になったりして正月に門附に出かけられない年が続いた。何年かたってすっかり年をとった木之助が門附に出かけた。懐かしい味噌屋に行ったが可愛がってくれた主人は昨年亡くなっていた。「これからはだれのために胡弓を弾いたらいいのだ」。自暴自棄になって、古道具屋に胡弓を売ってしまう。売った金で買い物をして帰り道、とんでもないことをしたことに気づき古道具屋にとって返し買い戻そうとすることができない。

「人生、一生懸命やってきたことがあるでしょう。年のせいで出来なくなり諦めたものもあるでしょう。しかし、一人でも喜んでくれる人がいたら幸

せです。一人でも喜んでくれる人があれば続けていくことができます」と、二つの紙芝居をまとめられた。最後に「自分を支えてくれた人も次々と亡くなってしまふ。自分は良く生きてこれたなあ、良かったなあと感謝しよう」。

そして優しさと思ひやりのある態度で周りの人に接したいと『無財の七施』について話され講話を終えられた。ありがとうございました。

◇眼施（げんせ）

やさしい眼差（まなざ）しで人に接する

◇和顔施（わがんせ）

にこやかな顔で接する

◇言辞施（ごんじせ）

やさしい言葉で接する

◇身施（しんせ）

自分の身体でできる事を奉仕する

◇床座施（しょうざせ）

席や自分の占めている場所を譲る

◇房舎施（ぼうじゃせ）

自分の家を訪問された人をもてなす

◇心施（しんせ）

他のために心をくばる

本年の仏教講話は今回で終わります。ありがとうございました。

1月はお休みです。次回は来年2月3日の予定です。

よいお年をお迎えください。

【せいりょう園空き情報 平成25年11月15日現在】



- ①ケアハウス：空きなし（バス・トイレ・キッチン付24㎡）
- ②グループホーム：空きなし
- ③グループホームまどか：空きなし
- ④サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」：1室
- ⑤サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」：空きあり

【他ケアハウス空き情報】

- | | | | |
|------------|----------|------------|----------|
| ○恵泉 | : 1人部屋若干 | ○第二ケアハウス恵泉 | : 1人部屋若干 |
| | : 2人部屋若干 | ○青山苑 | : 1人部屋2室 |
| ○清華苑刈パイ | : 1人部屋2室 | | : 2人部屋2室 |
| ○ネバーランド | : 1人部屋2室 | ○あさなぎ | : 1人部屋1室 |
| | : 2人部屋2室 | ○キャッシル真和 | : 1人部屋1室 |
| ○サリットひまわり園 | : 1人部屋2室 | ○香楽園 | : 1人部屋1室 |

【問合先】 せいりょう園 Tel(079)421-7156 / (079)424-3433

せいりょう園待機者状況 <平成25年12月11日現在>

- 入所判定済み者 402人（グループの内）
 - Iグループ…139名 IIグループ…156名 IIIグループ…107名
- 入所判定済み者の現在状況
 - 在宅157名 / 特別養護老人ホーム入所中14名 / ケアハウス入居中4名
 - 老人保健施設入所中95名 / 障害者施設2名 / 医療機関入院中113名
 - グループホーム入居中12名 / 所在不明5名
- 辞退その他 死去5名

